

書塾の仲間たち

第 221 回

書写書道 鈴木（長野県松本市）



●書塾からひとこと●

「継続は力なり」

書写書道には、このことわざがとても相応しいと感じます。多くの親御さんから、「うちの子は学校のノートの字がひどくて」と相談されると、「無理もないです、お子さんですか。書写書道は、上手に書けるようになる前の過程であり、字はすぐに上手に書けるようになる訳ではありません」と話しています。

「上手に書くより楽しく書こう」と、常々生徒さんには伝えていました。字を書くことに楽しさを覚え、書道教室に通うことが楽しくなり、長く通い続けた結果が将来、字が綺麗に書けるようになったという成果で表れたらと思います。

私は、小学校の六年間、両親の勧めで書道教室に通いました。当時は通うのが面倒で嫌でした。でも、字を書くことは大好きでした。通い続けたお陰でこうして大好きな生徒さんたちと書道ができる人生が訪れました。本当に楽しい日々に感謝しています。

現在は本業の傍ら書道教室をやらせていただいています。生徒さんはみんな、休むことなく元気よく楽しみに通ってきます。それも私にとっては活力です。中学進学を機に辞めてしまうかと思いきや、書道だけは続けたいという生徒さんが非常に多くて感心しています。中学からは行書の学習が始まります。書体・運筆の違いに最初は戸惑いますが、運筆の特徴を掴むと、学校での書道が楽しいと言ってくれます。

楽しく取り組めるということは上達も早く、自信にも繋がり、良いことが沢山あります。引き続き楽しい教室を目指し、字を書くことの楽しさを伝えていけたらと思います。

鈴木 美弥

ぼくがしゅう字をはじめたのは年ちょうどのときです。おかあさんが、しゅう字が大きくて子どものころにならっていいたので、ぼくにもならわせたかったそうです。さいしょは「しゅう字ってなんだろう」とおもっていました。たいけんかいにいって、えんぴつでかいたり水しづをやりました。ぼくの名まえを先生が小ふででかいてくれて、とてもじょうずでかっこよかつたので、ぼくもおなじようにかきたいなとおもいました。

きょうしつにかようようになつて、じぶんですみをすりました。とつてもつかれてたいへんだつたけど、うすいすみでかいたり、こいすみでかいたりできてたのしいので、すみをするのはすきです。

ぼくのさくひんをいつも先生がたくさんほめて花まるをかいてくれます。おかあさんは、その日にじょうずにかけたさくひんをリビングにかざつてくれます。おじいちゃんやおばあちゃんにもしゃしんをおくつて見てもらっています。みんな「じょうずだね」とほめてくれるのでうれしいです。じぶんのさくひんを見かえすと、ここがむずかしかった、ここがじょうずにできたとかんじます。つぎはもっとうまくかきたいなとおもいます。

一ねん生になつて、学校の先生にも字をほめられて、ひらがなのしゅくだいも花まるをもらいました。しゅう字をやっていてよかつたなとおもいます。しけんにごうかくしてきゅうが上がるのもたのしみです。ぼくのさくひんのしゃしんが本にのるようになつてがんばつづけていきたいです。

ぼくがしゅう字をはじめたのは年ちょうどのときです。おかあさんが、しゅう字が大きくて子どものころにならっていいたので、ぼくにもならわせたかったそうです。さいしょは「しゅう字ってなんだろう」とおもっていました。たいけんかいにいって、えんぴつでかいたり水しづをやりました。ぼくの名まえを先生が小ふででかいてくれて、とてもじょうずでかっこよかつたので、ぼくもおなじようにかきたいなとおもいました。

きょうしつにかようようになつて、じぶんですみをすりました。とつてもつかれてたいへんだつたけど、うすいすみでかいたり、こいすみでかいたりできてたのしいので、すみをするのはすきです。

ぼくのさくひんをいつも先生がたくさんほめて花まるをかいてくれます。おかあさんは、その日にじょうずにかけたさくひんをリビングにかざつてくれます。おじいちゃんやおばあちゃんにもしゃしんをおくつて見てもらっています。みんな「じょうずだね」とほめてくれるのでうれしいです。じぶんのさくひんを見かえすと、ここがむずかしかった、ここがじょうずにできたとかんじます。つぎはもっとうまくかきたいなとおもいます。

一ねん生になつて、学校の先生にも字をほめられて、ひらがなのしゅくだいも花まるをもらいました。しゅう字をやっていてよかつたなとおもいます。しけんにごうかくしてきゅうが上がるのもたのしみです。ぼくのさくひんのしゃしんが本にのるようになつてがんばつづけていきたいです。

字がうまくなりたい

東京都八王子市立山田小学校一年 寺島 伊織



私と書写書道 第221回

書くという道

埼玉県立松山女子高等学校一年 内野 愛子



私は小学二年生のときには習字教室に通い始めました。とても人見知りだった私にとって、母から離れて習い事に通うのは、とても勇気のいることでした。習い始めの頃は場に慣れるために精一杯で、先生や、教室の先輩方とお話をすることさえ、とても緊張していました。また、作品作りについても、ただ書いて、先生に言われたことを直していくような感じでした。それから、習字教室に通っていくうちに、自分自身で課題を見つけて納得がいくまで書くようになり、その頃から学校での展覧会に入選するようになりました。しかし、書けば書くほど、学年が上がれば上がるほど、課題がたくさん見つかり、難しさを感じました。自分の納得のいく字と、賞をいただける字との違いも感じるようになりましたが、今ではそのことをしっかりと自分で理解し、取り組んでいけるようになりました。

今年、高校に入学し、書道部に入部しました。部活動では、習字教室では習わないような書体や書き方、先輩方からの指導など、技術面だけでもいろいろなことを学ぶことができました。それに加え、上下関係など、人間関係の築き方でもたくさん学ぶことがあります。

中学の頃よりも忙しくなり、とても体力が必要になりますが、勉強は手を抜かず、どのようなことにも一生懸命取り組んでいきたいです。そして、自分が書道を今まで続けてこられたこと、これからも続けられること、そして一番に、ここまで導いてくれた先生に本当に感謝しています。今後も、書道という道を更に深めていきたいです。